

町の観光資源になり得る桜の木の計画的保存 について問う

質問者 下 野 義 子

近年、桜並木等を観光資源としている自治体では、積極的に桜を守る取り組みを始めている。桜は寿命が60年から80年といわれ、60年を超えると花が咲かなくなったり、根が腐り空洞化して倒木の危険性も増す。町内には狭山池や六道山のほか、学校やグラウンドなどに多くの桜が植えられ、町民の憩いの場となっている。これからもずっと咲き続けられるよう、桜の状態を把握し、計画的な保存の取り組みを進めるべきと考えるが。